



## 授業で培った学力の成果をSGH活動に活かす。関高SGH事業の方針のひとつです。今回は、ベトナム研修と英語授業に関わる実践例を報告します。

本年度英語科 1 年生のスローガンは、『英語学習を通して、自分は何者であるかを探る旅にしよう』である。これは、様々な文化や言語の違いに関する学びを通して、自分の内面を見つめなおそうということである。自分の内面を見直す、ということはつまり、自分は一体何者であるか”What you really are”を掘り下げていくことである。そういった意味で、今年度のベトナム研修は、まさにこれまで自分の築いてきた価値観に真正面から向き合う絶好の機会となった。現地の高校生、および大学生と顔を突き合わせて話をすることによって、これまでの固定化された自分の物の見方を打ち破るきっかけを多くつかんだ研修となった。

具体的な交流活動として、ファンボイチャウ高等学校とフエ大学において、現地の生徒と一つの共通テーマについて、意見を交流する場を設定することにした。生徒たちは 4 つの班に分かれて、それぞれ自分の興味のあるグローバル課題を設定し、様々な活動を通す中でプレゼンテーションという形で自分たちの主張をまとめあげた。以下の指導計画に基づき、計 12 回に及ぶ事前研修を、7 月下旬から、放課後の時間を使って行ってきた。

	date	contents	time
1	7月25日	<b>Orientation</b> 1: What do you know about vietnam? 2: Google search 3: HW: preparation for a two-min presentation	15 mins
2	9月15日	<b>Solo-presentation</b> (4 groups with 4-5 stds) 1. individual presentation in each group(12 mins) 2. choose 1 representative (2mins) 3. 4 students present in class (10 mins) 4. Reflective journal (5mins) 5: HW: global issues you are interested in (2 mins)	35-40 mins
3	10月6日	<b>What global issue I would like to learn more</b> 1. brainstorming in a small group(4 groups)/(7-8 mins) (派生図) 2. gallery walk (5mins) 3. grouping with 3-4 members (7-8 mins) 4. self-introduction as an ice breaking (6 mins) 5. HW: research: what info do we need (4mins)	35-40 mins
4	10月20日	<b>Sharing each research in a group</b> 1. share the info with others in English (2 mins/each)/10 mins 2. "What are the problems?"=name the facts we are facing (KJ法) 10 mins 3: "Why is it a problem?" =choose one and think about the cause-effect(因果関係図) 10 mins 4: HW: "How to solve the problem?" =come up with at least two solutions 5mins	35-40 mins
5	11月7日	<b>Possible solution(s) we can share with Vietnamese students</b> 1. share each idea in a group in English (10mins) 2. make a poster presentation (30 mins)	40mins

6	12月1日	<b>Group poster presentation (4 mins/group) (25 mins)</b> Rules: +use a poster, + everyone needs to talk, + talk to the audience, not read a note, + after each presentation, ask a question or give them feedback Wrap-up: journal writing (10mins)	35-40 mins
7	12月8日	<b>preparation for PPP (1)</b>	40 mins
8	12月8日	<b>preparation for PPP (2)</b> rehearsal	35 mins
9	1月12日	<b>Group power point presentation (5 mins/group) (25 mins)</b> feedback from Mr.Kunieda and Emmy(ALT)	35-40 mins
10	1月15日	<b>preparation for PPP (3)</b> <b>the last rehearsal</b>	35-40 mins
11	1月18日	a preliminary meeting	30 mins



この事前研修は、オリエンテーションから始まり、個人プレゼン・グループ決め・ギャラリーウォーク・意見交流・事前のポスターセッション・プレゼン作りなど、実に様々な活動を仕組んだ。参加生徒 17 名と少人数の利点を生かし、グループエンカウンター（集団力学）の視点をふんだんに踏まえ、使用言語は英語に限定した。その中で、生徒たちは授業で習った英語表現やコミュニケーションストラテジーを駆使しながら、なんとか研修で披露できるようなものに仕上げた。普段の英語

の授業では、効率性や内容により、一部日本語を取り混ぜて授業をすることもあるが、この事前研修は一切の妥協を許すことはなかった。そのため、自分の思いがスムーズに英語にならないフラストレーションや、英語を人前で話すことに対する恐れと、真正面から向き合うこととなった。それは、ベトナム研修でさらに加速され、現地の高校生の流ちょうな英語に触れ、自分の不甲斐なさが浮き彫りとなる反面、研修の学びとして次の3つの実りある成果を手にした。

(1) Accept the differences, and appreciate the similarities.

(違いを受け入れ同じであることに感謝すること)

(2) Never stop learning.

(学びを決して止めないこと)

(3) Get out of our comfort zone.

(自分の安全域から抜け出し、挑戦すること)



この研修はわずか5日間という短い間であったが、参加生徒は自分の壁に立ち向かおうとすることに大切さを、実体験から学ぶことができた。そしてそれは、今後とも様々な場面での行動指針になりうるだろう。今後の英語の授業においても、一人一人の生徒が、“できない自分・情けない自分”と仲良くなり、心の壁を乗り越えて、世界の人々と対等に向き合う準備の手助けをしていきたいと考えている。

(文責：木野村淳子)